

<b>授業科目</b>  老年看護学実習Ⅱ	<b>区分・教育内容</b>		
<b>授業担当者</b>  田安 和 （専任教員）	<b>開講時期</b>  前期～中期	<b>単位数</b>  2 単位	<b>時間数</b>  90 時間
<b>授業の目的</b> 老年期にある対象を総合的に理解し、生活の維持・向上に向けての看護を実践できる能力を養う。 <b>授業の目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の生活背景を捉え、身体的・精神的・社会的側面から総合的に把握することができる。</li> <li>2. 対象の生活機能の維持・向上に向け、科学的根拠に基づいた看護を展開できる。</li> <li>3. 対象の価値観を認め、円滑な人間関係を形成できる。</li> <li>4. チーム医療における看護の専門性を理解できる。</li> <li>5. 看護実践を通じて、研究的態度を身につけ、自己の看護観を高めることができる。</li> </ol>			
<b>授業概要</b> 本実習は老年期の患者を受け持ち、科学的根拠に基づいて必要な看護を実践できる基礎能力(知識・技術・態度)を養う総合的な学習である。加齢や疾患による機能低下が日常生活にどのような影響をもたらすのかを捉え、患者の強み、願いを考慮した目標を設定し、セルフケアの自立に向けた支援の方法を学ぶ。臨地実習要綱の学習内容を意識し、行動目標を達成できるように主体的に学習を進めて欲しい。本実習では、3年次の実習の中で比較的技術経験ができる実習でもある。積極的に経験し自信を持ってできる技術を増やす機会として欲しい。			
<b>授業計画（進め方）</b> 中通リハビリテーション病院 4階病棟(回復期病棟)にて実習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者を1名受け持ち、老年期にある患者の個別性を考慮した看護過程を展開し実践する。</li> <li>2. 見学や実践を通し、老年期にある患者の日常生活援助の方法を学ぶ。</li> <li>3. 実践・カンファレンス等を通し、患者理解を深め、看護アプローチについて考える。</li> <li>4. 実践や評価会議を通して、チーム医療の在り方や連携と協働、リハビリテーションに関わる各専門職種役割、およびチームの中の看護師の役割について考えを深める。</li> </ol>			
<b>テキスト</b> 最新老年看護学 第3版 2017年版 日本看護協会出版会 成人看護学 リハビリテーション看護論 ニューヴェルヒロカワ			
<b>指定図書・参考書</b> 林泰史 写真でわかるリハビリテーション看護 インターメディカ			
<b>評価の方法</b> 評価表に基づき、臨床指導者及び教員の評価によって行う。			